



1才、3才の孫と

慈愛の心で子供を 育てようではありませんか

国際ロータリー 第2650地区
2002～2003年度 ガバナー 岡村 吾郎



カルロ・ラビッツァ元RI会長は、新世代の育成に熱意を持ち次の世代を担う青少年の育成に夢を求め、1996～1997年度から9月を青少年活動月間の名称を「新世代の為の月間」と改められました。

さて、日本の夕暮れ時、都会、ステーション通路に立ち止まってみると、唇に朱を塗った小娘が、右手に煙草、左手に携帯電話、その隣では地面にお尻を下ろして口をもぐもぐさせながら茶髪の男性と話をしている。思い浮かべて下さい。この娘達の姿を皆さんどう思われますか。どの様に感じられますか。

高度経済成長と共に、大量生産、大量消費による使い捨て文化と、戦後の教育に原因があるのです。先ず始めに、皆さんに思い出して頂きたい事は「自由の定義」です。外国人は「自由とは、人の和の中での自由」と云いますが、日本人は他人から束縛されず、他人より自由である事を自由と考えてしまいました。本質的に全く異なります。

人間社会に於いて、自分さえ良ければ他人はどうでも良いと言う自由は許されないのです。日本人は戦後、残念ながら日本の美德であった「たしなみ」を忘れてしまいました。いや、むしろ忘れさせられたと言っても過言ではないと思います。「たしなみ」とは日常心がける事、日常生活の中で、ちょっとしたしぐさの中に自然と現れる人に対する思いやりの行動、譲り合ったり、手助けをする事であります。このたしなみがなくなったが故に、すぐにキレ、想像もしない事を引き起こしてしまうのです。

それでは今、日本人はいったい何をどうするべきなのでしょう。そうです“家庭教育”を思い出し、昔の家庭を大切にする家族主義（親・子・兄弟姉妹・祖父母等）が幼少の子供には必要な



誕生



3才と5才



小学1年生と3年生

のです。この家族は、社会生活の一番小さい核なので、これを等閑にしては人間形成は出来ないのです。「健全なる両親」とは、子供を養育するだけでなく慈愛を注ぎ、それと共にけじめをしっかりと教え込む両親を言います。そこで、お母さん方をお願いしたい事は、子供が幼い時に少しでも慈愛の心でもって抱きしめ母親の温もりを記憶させて下さい。人生に於いて、この時程幸の時はないのです。その幼児が育ち、学校、社会へと成長していくのですが、その過程の中で、日本は又大きな誤りを起こしたと言えます。

教育には・知育・徳育・体育の3つがありますが、現在でも学校教育には知識偏重教育、管理教育により徳育を忘れています。故に高校へ行かなければ、大学に行かなければと「学歴のみ」の社会が出来上がってしまいました。他方ドイツでは、マイスター制度即ち昔から日本の伝統産業を引き継いでいる職人に相当する専門職人による文化を伝える社会を作り上げています。次の世代を背負っていく若者が汗を流して技を磨いているのです。この現実をしっかりとみつめ、日本のロータリアンは1日でも速く人間性豊かな若者を教育していかねば、心優しい日本人は消えていくでしょう。



誕生の瞬間

母親の抱擁は子供にとって一番幸せな時です

職業奉仕月間に臨んで

地区職業奉仕委員会委員長 黒川 正夫（京都西南RC）



10月は職業奉仕月間です。クラブでの職業奉仕部門フォーラムや、地域での奉仕プロジェクトの実施など職業奉仕活動を幅広く展開し、また個人としても職業奉仕の理念を奥深く勉強し身につける絶好の機会です。

地区職業奉仕委員会としましても職業奉仕月間を前に8月・9月と各府県別にクラブの職業奉仕委員長さんに集まっていたき、職業奉仕研究会を開き、ロータリアン個人およびクラブとしてどのように職業奉仕に取り組み、そして職業奉仕として周囲に「慈愛の種を播こう」かを話し合い、各クラブの職業奉仕活動のお役に立ちたいと願っているところです。

今日の社会情勢はまだまだ厳しい状況がつづいています。その中、職業奉仕理念の求める職業倫理は地に落ち、およそ奉仕の理想や慈愛の心とは程遠い不実表示や詐欺的商法、はては粉飾擬装が横行しています。会社は社会のためにあるという道理が忘れ去られているのです。

このような時代にロータリーの存在意義は大きく、職業奉仕の考え方の重要性が叫ばれるのは当然です。

恰もビチャイ・ラタクルR1会長は“Sow the Seeds of Love” - 慈愛の種を播きましょう - というRIテーマとともに「職業奉仕の重視」を表明されました。ラタクル会長は、この4月の地区大会での当時RI会長代理としてのアドレスで、「我々がロータリーに加わるよう勧められたのは、我々の職業が基準にあったことを忘れ勝ちです。…自分の職業をクラブで代表するとともに、大きく社会に対しても代表する責任を伴っているのです。多分この

ことで世界中の多くのクラブでロータリーの第2の奉仕手段 - 職業奉仕の重要性が殆ど忘れられていると思います。

我々は絶えず我々の職業的成長を、この第2の奉仕手段によって育てていることを忘れてはなりません。それは全ての価値ある職業を尊重しよう我々を仕向け、最高の倫理基準を遂行することを我々に期待し、更に職業を通じて如何にして他の人々に奉仕するかを教えるものです。」と熱を込めて語られました。

ロータリーは、今、地域社会への奉仕、更に国際的・世界的な大規模奉仕プロジェクトへと活動を拡げていますが、ロータリーの根本精神はその原点である職業奉仕をはじめとする“*I Serve*”の精神にあることは如何なる時代にも見失ってはならない不変の原理です。その根底の“*Service above Self*” - 超我の奉仕 - の精神はロータリアンの一人一人が持っていて日常職務の上で活かさねばならないものです。

人間は善と悪、神性と俗性の両面の岐路であがきもがいて生きています。エゴを抑制し利他の慈愛心にウェイトをおくことはわかっているても行うことは難しいのです。そこにフェロウシップによる励まし合いも必要であり、職業奉仕の理念を強調する職業奉仕月間のある所以です。

多くのロータリアンがこの月を契機に「四つのテスト」の適用と、職業を取り巻く相手の満足を慮る節度ある経営に徹するとき、必ず自己の幸福とロータリーの目指す住み良い社会に近づくことでありましょう。

「米山奨学事業を育てよう」

地区米山奨学委員会委員長 大島 正光（高島RC）



日頃は、米山奨学事業にご理解ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

米山奨学事業は、日本のロータリー創設者の父である米山梅吉氏を記念して、1952年に東京ロータリー・クラブによって構想が立てられ、1953年から2名の奨学生でスタートしました。現在年間奨学生数は1000名となり、過去累計で10173名を支援するに至りました。

2003年度2650地区の採用割当数は48名です。昨年からの継続者10名を除く38名が新規に採用されます。其の他と特別奨学生が2名程度採用されますので2003年度の在籍数は50名になります。

新しく採用された奨学生は、毎年5月に実施されるオリエンテーションで、奨学生の心得について研修し米山奨学会宛に確約書が提出されます。

世話クラブのカウンセラーは、オリエンテーションで始めて奨学生と面会致します。6月から世話クラブの例会に月一度出席し奨学生とロータリアンとの交流が始まります。2003年度からは、オリエンテーションの前に、カウンセラーの勉強会を地区主催で実施することになりました。米山奨学生の選考に際し採用基準は、健康であること。学問及研究の取組が優秀であること。異文化に対する理解度。コミュニケーション能力。地域交流・ボランティア活動。国際交流・奉仕活動。日本語能力。等が基準となろうと考えます。

採用の順序として 奨学会で決められた基準により算出された方式で地区内にある大学に申込者数を割り当てます。指定校となった大学は第一次選考として割り当数（採用予定数の3倍）の範囲で選考し申込書の外、学生のレポート・指導教官の推薦書を添えて奨学会へ送ります。奨学では書類選考を実施します。書類選考で合格した留学生の書類を地区のガバナー事務所に送付されます。地区の米山奨学委員長は、諮問委員、ガバナ-と協議し選考委員を決定し、ガバナーから委嘱されます。選考

委員は、ブロック別に留学生の面接を実施し採用を決定します。

地区内名ブロック別採用数

	2002年	2003年予定
京都ブロック	13	17
福井	5	6
滋賀	7	8
奈良	6	7
計	31名	38名
補欠	1名	

採用割当は、留学生有資格者数のウェイト40%・各ブロック年間1人当りの寄付額のウェイト60%で算出されます。

米山奨学事業は、善良なロータリアンの寄付によって支えられています。

前年度寄付実績 2650地区

総額	¥122,434,234	全国1位
1人当り寄付額	¥21,252	全国4位

（人数は5,761名1月1日現在）

1人当りの寄付額も上位5位以内と良い成績でした。

本年度の目標は1人当り24,000円を達成目標としています。ロータリアンが月当り2,000円ご協力いただければ目標に到達出来ます。クラブは小さくても1人当りですから是非ご協力お願い致します。ご参考までに全国1位の1人当り寄付額は、2590地区の27,601円です。

学友会の第1回目の冊子が出来ました。ご希望の方は、クラブを通して地区米山分室へお申し込み下さい。

米山奨学事業を育てよう。

寄付金は、1人当り2,000円/月
米山ボックスでご支援願います。

「3年目のインターネット委員会」

地区インターネット委員会委員長 猪田 浩史(京都南RC)



2年前の7月、RI第2650地区インターネット委員会が志村前委員長の下、発足しました。当初より3ヵ年計画で地区内のIT化を推進してまいりましたが、今年度はいよいよ3年目にあたり、完了すべき年となりました。地区内クラブの事務局アドレス取得については強力に支援が必要で、各クラブのウェブサイト作成支援として基本フォーマットを作成いたしました。今後インターネット委員会が無くともガバナー事務所と各クラブが電子メールでつながり、ウェブサイトが自動的に更新されるようなシステム作りが大切になります。RJW(ロータリー・ジャパン・ウェブ)がRIに認定され、公式サイトとして機能を十分に発揮していますので、RIからの情報については、RJW更新情報を自動的に流すのみとなりました。反面、地区内の情報について、広報活動が重要になってきています。各地区委員会からもウェブサイトへの掲載要望が出てくるようになり、その対応についてもシステム作りが必要かと思えます。今年度は以下の4点を重点に活動いたします。

- 【1】地区内93クラブの事務局アドレス100%取得を目指します。
- 【2】地区内93クラブのウェブサイト設置支援システムを作成します。
- 【3】地区ウェブサイトのさらなる内容充実を目指し、自動更新システムを完成させます。
- 【4】地区委員会ウェブページ作成支援システムを作成します。

2002年7月1日現在2650地区93クラブ中、HP開設クラブ数:37クラブ、電子メール開通事務局数:85クラブ、地区通信ML配信クラブ:87クラブとなり、100%開通まであと一步となりました。アドレス取得されない8クラブについて、何が障害になっているかをお知らせ願って、対処法を見つけたいと考えています。ウェブサイトを設置しているクラブは37クラブ。開設しやすいように支援システム

を完成させたく思います。ウェブサイト自動更新については、事務局対応としガバナー事務所分室で更新します。地区委員会よりの要望を、今後は直接作成者につなげていきたいと思っています。

継続事業としては以下のものがあります。

- 【1】地区通信メーリングリストで、RJW更新情報や地区ウェブサイト更新情報を、地区内全クラブに提供します。
- 【2】現在、全地区委員会に設置している恒久アドレスについて、年度毎の管理を行います。
- 【3】クラブより卓話依頼があれば委員会として受け、担当を決めて出向きます。ご連絡ください。

地区内ロータリアンお一人お一人のための情報網です。ぜひウェブサイトを訪れていただき、膨大な情報をどうぞご活用ください。主要サイトのアドレスを掲載しておきます。

第2650地区ウェブサイト <http://rid2650.gr.jp/>
imode用 <http://rid2650.gr.jp/i/>

RJW <http://www.rotary.or.jp/>

RI公式サイト(英語) <http://www.rotary.org/>

お問い合わせは、インターネット委員会 inet@rid2650.gr.jp (担当:ガバナー事務所京都分室石見綾子)までお気軽にどうぞ。





無限の可能性への挑戦！

直前地区ローターアクト代表 山下 康祐（高島RAC）

皆様こんにちは。国際ロータリー第2650地区 直前地区ローターアクト代表の山下康祐でございます。所属は高島ローターアクトクラブです。

2001 - 2002年度一年間は、直前ガバナー 西村二郎様、地区ローターアクト委員長 長 一幸を始め、地区内のロータリアンの皆様、素晴らしい機会とご指導ご鞭撻を頂戴致しまして、本当にありがとうございました。お蔭様をもちましてローターアクト地区運営が円滑に進み、我々青少年にとりましてローターアクトの素晴らしさとロータリーの偉大さをより知る事が出来る貴重な時間と空間でございました。誌面をもちまして感謝の意を表したいと存じます。

ローターアクトとは、『ローターアクトの目的は、青少年が個々の能力開発に当って役立つ知識や技能を高め、それぞれの地域社会における物質的、あるいは社会的ニーズと取り組み、親睦と奉仕活動を通じて全世界の人々のあいだによりよい信頼関係を推進するための機会を提供することにある』（国際ロータリー標準ローターアクト・クラブ定款より抜粋）と詠われております。すなわち、明日は親となり、専門職務と事業に携わる指導者、地域社会の指導者となり得る若者に、ローターアクトプログラムの力を借りて、責任感のある生産的な社会の一員となるために必要な手段と技能を身に付け、自分自身の力を試し、新技能を開発し、生涯にわたるような問題に立ち向かえるように要請された場なのです。2001 - 2002年R.I会長リチャードD・キング氏の『Mankind is our business 人類が私達の仕事』とはローターアクトを指されていたのではないのでしょうか。青少年プログラムの充実こそが、今の人類に課せられた使命だと考えられます。すなわち、人類として繁栄していくことこそが、ロータリーの目指す『奉仕の理想』のように僕自身は感じられました。

今年度、R.I会長ビチャイ・ラタクル氏は“Sow the Seeds of Love”（慈愛の種を播きましょう）をテーマに掲げられ、岡村吾郎ガバナーは「常に心して歩いた後に平和の花を咲かせましょう」を地区スローガンとして掲げられました。ロータリーの皆様の、また全人類の慈愛の精神を受け、我々青少年は「明日へ！」向かい、元気よく大輪を咲かせたいと思います。この30年あまり、素晴らしい土壌はすでに頂いております。今後はより愛情のこもった水と栄養を適度に頂戴し、あたたかく、また厳しく見守っていただきたいと存じます。

我々はローターアクトを通じ、「自分自身の可能性」と「夢への道」を少しでも見る事が出来ました。ロータリーは常に“夢”を追い求めるものです。だからこそローターアクトを御提唱頂いてると信じております。これからの世界は我々若者の手にかかっております。大いなる希望を胸にこれからも精進して邁進していきたいと思っております。

最後になりますが、これは僕の大好きな言葉です。

「夢は必ず叶うもの。もしか叶わないのならば、

その人の想いが弱いからだ。諦めない限り必ず夢は叶う！」

今後ともローターアクトに、また社会人としてご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。



インターアクトクラブ

地区大会開催に向けて

RI2650地区インターアクト地区代表
京都府立桃山高校 インターアクトクラブ会長
半 田 幸 来

桃山高校インターアクトクラブでは、老人ホームや養護学校の方々との交流をしたり、国際理解を深めたりという活動を行なっています。

7月には、呉竹養護学校で介護の講習を受けました。この講習で、安全で安楽な介護をするために、まず介護する側の安定した姿勢が大切だということ学びました。また、車いすで実際に道路に出るという体験も行いました。普通に歩いている時は平気な坂や段差、それから踏切りなどにある溝が、車いすに乗ると大きな障害となり、とても大変で危険なのです。車いすを利用する人が、もっと安心して道路を渡れるためにも、段差や溝などを減らしていくべきだと思います。そして何よりも、私たちの支えが必要なのだと、この体験を通して感じました。

それから、私たちは今年の秋に本校で実施する地区大会に向けての取り組みも進めています。今回は“水”を中心にしたテーマにしようと思っています。今年の大会では、ウォークラリーを入れ、お互い交流を深められれば良いなと考えています。そのため、

私たちはウォークラリーの下見をしたのですが、そこで私は、伏見に住んでいながら、地域を知らなすぎたことに驚きました。伏見とは、昔、「伏水」と記されたほど、良質の地下水に恵まれた土地なのです。その利用先は、飲み水はもちろん、米や酒作り、さらには人や物の輸送にも及んでいます。しかし、現在、地下水の水位が下がってきたり、川の水が汚染されたりということが起こってきています。こういった水問題は、伏見だけにとどまらず、世界各地で深刻なものとなってきています。水がいかに地球上の生物にとって大切かということ、この大会を通して多くの人々とともに学びたいと思います。

この大会を成功させるよう精一杯がんばりますので、よろしくお願いします。

(ホストクラブ：京都洛南RC)

インターアクト地区大会

11月9日(土)～10日(日)



呉竹養護学校での介助実習



酒蔵の見学会

地区青少年委員長会議

地区青少年委員会副委員長 土垣内 清昭（平城京RC）

平成14年7月13日（土）ホテル京阪京都において、第1回青少年委員長会議を開催いたしました。

「新世代のための会議」開催についてのフォーラムとして、出席の各RC青少年委員長を10グループに分かれて頂き約1時間のディスカッションの後、各グループのリーダーに発表をして頂きました。その後、昨年度ガバナー賞を受賞されましたRCの中から「鯖江、武生、平城京、奈良大宮、京都田辺、京都洛西」の6RCより、その内容について発表して頂きました。尚、昨年度「新世代のための会議」を開催され、5



月中旬迄に報告書を提出されたRCは61クラブでした。61クラブの報告書を編集し、「新世代のための会議」報告書を委員会にて冊子にし、全クラブに配布させて頂きました。報告書未提出クラブ及び5月中旬以降に開催されたクラブを入れますと70クラブを越えていると思われませんが、地区青少年委員会におきましては、全クラブでの開催を期待しておりますので、今年度は是非、93全クラブでの開催をお願い致します。

地区環境保全委員長会議・研修会

地区環境保全委員会委員長 羽根 史朗（橿原RC）

本年度、環境保全委員会が活動を実施するに当り、何をするのか、又何の様に計画をたて、行動し、地域社会の環境保全に役立てるかを研修し、委員長の環境意識向上を目的として委員会兼研修会を7月27日（土）京都アスニーで開催しました。

講演 - 1 本田茂諮問委員

環境保全委員会は、何をするのか？という、まず地域の要望、ニーズを調査しなさい。地域のニーズにマッチしていないと、地元の協力が得られない。そして何をすれば良いか、そして如何に行うか、そして、ボーイスカウト、ローターアクト、その他の福祉団体等と協力し、地域の輪を拡げ、環境保全の理念を地域社会に育てていく。我々ロータリアンは目標を立て、目標に向かって挑戦していくその様な気持ちをもって、環境保全に取り組んで頂きたい。

講演 - 2 中井克樹氏 滋賀県立琵琶湖博物館、理学博士

現在の琵琶湖の現状を調査し報告していただいた。琵琶湖の魚の大半は外来魚の「バス」「ブルーギル」で占められ、在来種が絶滅の危機に瀕している。そしてスポーツフィッシングという名のもと、他の地域へ密放流され、外来魚が各地へと広がっている。外来魚が従来魚を食べ、従来生態系を破壊している。

何が問題かといえば、動物愛護という名のもとに、釣った魚をリリースしたり、飼育している外来動物を適切に処理せず捨てたりして、動植物の生態系を破壊している。我々は次の世代に何を残すかを考え、自然破壊から守っていかなければならない。



ガバナー賞受賞クラブの事業内容発表

昨年度ガバナー賞を受賞された。優良事業の発表を行った。舞鶴RC、京都北RC、近江八幡RC、京都八幡RC、福知山RCの発表を行った。そして、何が何素晴らしいのかを学び、本年度何生かすのかを考えた。

以上の研修の結果、環境保全の大切さを学び、自らの資質の向上、そしてロータリアンがリーダーとなって、各地域の環境保全に役立ち、本年度委員会活動の参考としていただいた。

地区世界社会奉仕（国際奉仕）委員長会議

地区世界社会奉仕委員長 前田 正一郎（奈良RC）

7月25日、ホテル京阪京都で諮問委員パストガバナー山崎時雄、特別委員会パストガバナー大日方弘明、WHO、WPROメディカルオフィサー佐藤芳邦氏をお迎えして、WCS委員長（国際奉仕委員長）会議を行った。本年のWCS委員会は、アジアの不幸な国カンボジアを支援することとして、2月と6月に現地事情



ポイベトの村での小学校授業風景、ほとんどががやぶきです



子供にはポリオワクチン投与、女性には破傷風等の予防接種

調査に行った。特に6月は委員7名とローターアクト2名計9名がカンボジアに行き、現地事情を目で確認すると同時にミッションをしてきたことを発表した。本年はなぜカンボジアにするのか、そこで何をするのかを説明と討論をしました。「1人でも多くの人々を、我々の手で少しでも助けてやりたい」と地区内6,000名のメンバーにどうしたら伝えることができるか。少しでも理解を深めてもらえるかを討論した。

委員会はその1つとして、1万枚のカンボジア支援のリーフレットを印刷し、その説明をしました。次に少しでも多くの善意の寄附を得るべく、地雷ボックスを作りました。これは信楽焼で昔の日本が陶器で作ったことがある地雷の型です。本年度の募金の期限は来年2月ミッションの前までとしますが、カンボジア支援が複数年になるならば、このボックスは来年もお願いすることになります。他に節食ランチをお願いして、支援をしてやりたいと思います。委員会は現地事情を理解してもらうためにはスライ

ド等を使って、卓話に行くことにしました。どうぞご協力をお願いします。

30年続いた不幸な内戦はカンボジアの人々の生活をメチャメチャにしていまいりました。平和になってまだ3～4年であります。地雷畑と言われるように一面に地雷が埋まっており、全土に多くの地雷原が残っています。完全に取るには100年必要と言われていています。日本政府も大きなお金を毎年出していますが、それはほんの一部にしかすぎません。地雷原で生活している人々は生きるのがぎりぎり、ちょっとした病気でもお金が無くて命をなくす人や子供が多くいます。教育についてはもっとひどく、学校すら無い村が多くあります。有っても先生がいないところも多いのです。1ドルのお金はカンボジアの子供が1人1ヶ月学校で学ぶことが出来るお金です。ロータリーアンが毎月1ドルをあのボックスに入れてもらうことが出来れば、約6,000人の子供に初等教育を受けさせてあげることが出来ます。それはカンボジアの国にとってその子供は将来大きな宝になるのではないのでしょうか。



地雷除去の風景（地雷博物館館長 アキ・ラーさん）手前は学校の校庭、後は地雷原です。

世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務局（WPRO）を訪問

地区世界社会奉仕 前田 正一郎（奈良RC）

8月11日～13日、岡村ガバナー夫妻以下9名は、フィリピン、マニラのWHO、WPROを訪問した。

日本国政府が開催国として責務ある第53回世界保健機関西太平洋委員会（9月16日～20日開催地京都）



世界保健機関での覚書調印

において、この地域の「ポリオフリー」維持が世界規模の根絶のためにいかに重要で、しかも困難であるかを早くから理解して、ポリオ根絶宣言後も西太平洋地域に継続支援をしてきた国際ロータリー第2650地区に対して発言の要請を受けましたことと、この会議への協力と世界社会奉仕委員会（WCS）が、本年カンボジア支援をする事業の人的支援部分として、ポリオワクチン投与を主に、バタンバン地区を含めた埋設地雷の影響による低予防接種率地域を対象とした援助について覚書を調印した。



ロータリー情報 委員会だより

『 2 つ の 標 語 』

地区ロータリー情報委員
谷内 乾岳（京都西RC）

今は亡き絹川P.G（京都RC）は、ロータリーはどんな立派な奉仕活動をやっているかというより、どんな立派な人を作り上げたかが大切であると教えられ、これは現在もロータリー情報などでよく言われている。

絹川P.Gは更に立派な人を作り上げてゆく手段としての奉仕活動計画をたて、宗教的、哲学的なものを加味したものがロータリーであると。その宗教的標語が“超我の奉仕”であり、哲学的標語が“最もよく奉仕する者、最も多く報いられる”であろう。

ところで伝教大師最澄は弟子の指導方針として、弘仁9年（818）に山家学生式を書いている。その文中「好事は他に与へ、悪事を己に向へ、己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」と教えている。

また東洋哲学の主流をなす儒教の経典「易経」の中では、「積善の家には余慶あり、積不善の家には必ず余殃あり」と説かれている。ロータリーの2つの標語に対応するこれら東洋の名言に、絹川P.Gも時空を超えての共感を覚えていられたことであろう。

参加しよう！インターシティーミーティング

テーマ「社会に慈愛の種を播きましょう」				
第2組 京 都 北 部	(日時) 9月21日(土)	(ホストクラブ) 宮 津 R.C.	(ゼネラルリーダー) 山田三郎	綾部、福知山、 福知山西南、舞鶴、 舞鶴東、峰山、 宮津 7R.C.
	(会場) 宮津ロイヤルホテル	(会長) 金谷 一	(実行委員長) 清水孝雄	

テーマ「社会に慈愛の種を播きましょう」				
第5組 福 井	(日時) 10月5日(土)	(ホストクラブ) 鯖江北 R.C.	(ゼネラルリーダー) 宮崎茂和	福井、福井あじさい、 福井東、福井北、福 井南、福井西、福井 フェニックス、勝山、 丸岡、三国、大野、 鯖江、鯖江北、武生、 武生府中、敦賀、若 狭 17R.C.
	(会場) ザンドーム 福井	(会長) 小山 泉	(実行委員長) 佐々木照誠	

テーマ「クラブに慈愛の種を播きましょう」 「世界に慈愛の種を播きましょう」				
第4組 奈 良	(日時) 10月19日(土)	(ホストクラブ) 五 條 R.C.	(ゼネラルリーダー) 中野重宏	五條、平城京、生 駒、橿原、橿原中 央、奈良、奈良東、 奈良西、奈良大宮、 王寺、桜井、大和 郡山、大和高田 13R.C.
	(会場) 橿原万葉 ホール	(会長) 三谷 始	(実行委員長) 久保 崇	

アラスカ……素晴らしい友に会えた日々

京都伏見ロータリークラブ

国際奉仕委員長

長谷川 邦 男

「OH-ヨコソ(ようこそ)エラシャイマシタ(いらっしゃいました)」

「OH-グッド モーニング(good morning)サンキュー(thank you)」 * ...???

2002.7.22 朝 米国アンカレッジ空港にて、熱烈な歓迎を受けたのは、RI.5010地区(米国アラスカ州、カナダ/ロシアの一部)と2650地区の友情交換プログラム参加の一行である。ホストファミリーと共に、先ずは我が家(?)に無事到着した。

夕刻からはアンカレッジRC.グコーリアさん(地区交流委員長)の家で、大日方アンカレッジ総領事、地区ガバナーのアーバンドフーカン氏そしてアラスカヒルサイドRC.東RC.等総勢30数名の大ホームパーティが始まった。

涼しい大自然の中で乾杯!!美味しいバーベキューをいただき白夜の友情交換は時のたつのを忘れさせるものだった。

翌日は船に乗り氷河見物、アリエスカ プリンズホテルに一泊した後、次の目的地ホーマー市へ飛んだ。

アンカレッジにも増してホーマーカチャマックベイRC.(京都伏見RC.と12年来の姉妹クラブ)の温かい歓迎を受けた一行は、朝からホーマー市長立ち会いの元、商工会議所前庭とホーマースケートボード公園の植樹(京都伏見RC.設立30周年記念事業)をおこなった。(アラスカでは大量の唐松の木が虫害により枯れている)



植物祭に参加



ホーマーカチャマックベイRCの例会でお茶とお花のデモンストラーション

引き続きカチャマックベイRC.の例会に出席、なかでも大村夫人、松井夫人、長谷川夫人による、茶道、華道のお披露目は大好評で文化交流に大きく貢献したと言える。

例会ではコンダクターの名調子に乗って「一定時間、皆の前で何を喋っても良い自己発言権(?)」や「当日の生け花作品」等がオークションされた。これが日本で言うニコニコ箱(?)である。約50名の会場は大いに盛り上がり実に楽しい例会であった。

ホーマー最後の日は5010地区パストガバナーである、スティーブ吉田氏のご好意で鮭つりを体験、それぞれそれなりの成果(?)をあげた。

わずか一週間でホームステイは4日間だったが、この交流を通じて素晴らしい人達の日常に接する事が出来、名残は尽きぬまま再会を堅く約束して帰国の途についた。

ロータリーの奉仕活動の中でも、究極の国際奉仕、そのほんの入り口でも体験出来た我々は実に幸せ者です。アイサーブの実行、そして継続、一人でも多くの幸せ仲間が増えますように。

お世話になったアラスカの皆様、そして旅行に際しご協力を頂いた方々に心から感謝申し上げます。

参加者 王寺RC. 松井会員夫妻

京都伏見RC. 大村会員夫妻 長谷川会員夫妻

荒川会員 生島会員